

変量  $x, y$  の相関係数について考える.

(1) 変量  $x, y$  の値の組

$$(x_1, y_1), (x_2, y_2), \dots, (x_{25}, y_{25})$$

をデータ  $Z$  とする. 図 1 は  $Z$  の散布図であり,  $Z$  から図 1 の点 A の表す値の組を除いた 24 個の値の組からなるデータを  $Z'$  とする. 図 2 は  $Z'$  の散布図である.

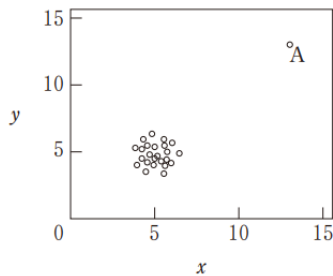


図 1 データ  $Z$  の散布図

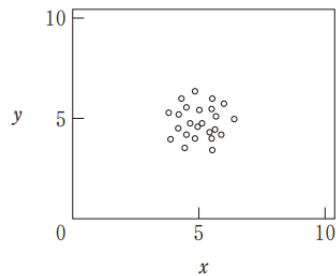


図 2 データ  $Z'$  の散布図

データ  $Z$  の  $x$  と  $y$  の相関係数を計算すると 0.8 となる. データ  $Z'$  の  $x$  と  $y$  の相関係数はおよそ  である.

については, 最も適当なものを, 次の ①~⑤のうちから一つ選べ.

① -0.8	② -0.6	③ 0.0	④ 0.5	⑤ 0.7	⑥ 0.9
--------	--------	-------	-------	-------	-------

(2) 変量  $x, y$  の値の組

$$(-1, -1), (-1, 1), (1, -1), (1, 1)$$

をデータ  $W$  とする. データ  $W$  の  $x$  と  $y$  の相関係数は 0 である. データ  $W$  に, 新たに 1 個の値の組を加えたときの相関係数について調べる. なお, 必要に応じて, 後に示す表 1 の計算表を用いて考えてもよい.

$a$  を実数とする. データ  $W$  に  $(5a, 5a)$  を加えたデータを  $W'$  とする.  $W'$  の  $x$  の平均値  $\bar{x}$  は ,  $W'$  の  $x$  は  $y$  の共分散  $s_{xy}$  は  となる. ただし,  $x$  と  $y$  の共分散とは,  $x$  の偏差と  $y$  の偏差の積の平均値である.

$W'$  の  $x$  と  $y$  の標準偏差を, それぞれ  $s_x, s_y$  とする. 積  $s_x s_y$  は  となる. また相関係数が 0.95 以上となるための必要十分条件は  $s_{xy} \geq 0.95 s_x s_y$  である. これより, 相関係数が 0.95 以上となるような  $a$  の値の範囲は  である.

表1 計算表

$x$	$y$	$x - \bar{x}$	$y - \bar{y}$	$(x - \bar{y})(x - \bar{y})$
-1	-1			
-1	1			
1	-1			
1	1			
$5a$	$5a$			

ケの解答群

- ① 0      ②  $5a$       ③  $5a + 4$       ④  $a$       ⑤  $a + \frac{4}{5}$

コの解答群

- ①  $4a^2$       ②  $4a^2 + \frac{4}{5}$       ③  $4a^2 + \frac{4}{5}a$       ④  $5a^2$       ⑤  $20a^2$

サの解答群

- ①  $4a^2 + \frac{16}{5}a + \frac{4}{5}$       ②  $4a^2 + 1$   
 ③  $4a^2 + \frac{4}{5}a$       ④  $2a^2 + \frac{2}{5}$

シの解答群

- ①  $-\frac{\sqrt{95}}{4} \leq a \leq \frac{\sqrt{95}}{4}$       ②  $a \leq -\frac{\sqrt{95}}{4}, \frac{\sqrt{95}}{4} \leq a$   
 ③  $-\frac{\sqrt{95}}{5} \leq a \leq \frac{\sqrt{95}}{5}$       ④  $a \leq -\frac{\sqrt{95}}{5}, \frac{\sqrt{95}}{5} \leq a$   
 ⑤  $-\frac{2\sqrt{19}}{5} \leq a \leq \frac{2\sqrt{19}}{5}$       ⑥  $a \leq -\frac{2\sqrt{19}}{5}, \frac{2\sqrt{19}}{5} \leq a$

(23 共通テスト 追・再試験 I 4[2])

ク	ケ	コ	サ	シ
2	3	0	2	3

【解答】

(1) 相関係数の値は  $-1$  と  $1$  の間にある。データ  $Z'$  の散布図ではデータが点  $(5, 5)$  に集中しているから、選択肢として当てはまる値は **0.0** である。 (2) ……(答)

(2)  $W'$  の  $x$  の平均値  $\bar{x}$  は

$$\bar{x} = \frac{-1 - 1 + 1 + 1 + 5a}{5} = a \quad (3) \quad \dots\dots(\text{答})$$

である。同じく  $W'$  の  $x$  の平均値  $\bar{y}$  は

$$\bar{y} = \frac{-1+1-1+1+5a}{5} = a$$

であり、計算表は次のようになる。

$x$	$y$	$x - \bar{x}$	$y - \bar{y}$	$(x - \bar{y})(x - \bar{y})$
-1	-1	-1 - a	-1 - a	$(1 + a)^2$
-1	1	-1 - a	1 - a	$a^2 - 1$
1	-1	1 - a	-1 - a	$a^2 - 1$
1	1	1 - a	1 - a	$(1 - a)^2$
5a	5a	4a	4a	$16a^2$

$W'$  の  $x$  と  $y$  の共分散  $s_{xy}$  は

$$\begin{aligned} s_{xy} &= (x \text{ の偏差と } y \text{ の偏差の積の平均値}) \\ &= \frac{(1+a)^2 + 2(a^2 - 1) + (1-a)^2 + 16a^2}{5} \\ &= \frac{20a^2}{5} \\ &= 4a^2 \quad (\textcircled{0}) \end{aligned}$$

……(答)

となる。

$W'$  の  $x$  の標準偏差  $s_x$  は

$$s_x^2 = \frac{2(-1-a)^2 + 2(1-a)^2 + (4a)^2}{5} = \frac{20a^2 + 4}{5} = 4a^2 + \frac{4}{5}$$

同じく、 $W'$  の  $y$  の標準偏差  $s_y$  は

$$s_y^2 = 4a^2 + \frac{4}{5}$$

であり、積  $s_x s_y$  は

$$s_x s_y = \sqrt{4a^2 + \frac{4}{5}} \sqrt{4a^2 + \frac{4}{5}} = 4a^2 + \frac{4}{5} \quad (\textcircled{2})$$

……(答)

となる。

また、相関係数  $\frac{s_{xy}}{s_x s_y}$  が 0.95 以上となるための必要十分条件は

$$\frac{s_{xy}}{s_x s_y} \geq 0.95 \quad \therefore s_{xy} \geq 0.95 s_x s_y$$

であるから、 $a$  の値の範囲は

$$\begin{aligned} 4a^2 &\geq 0.95 \left( 4a^2 + \frac{4}{5} \right) \\ (1 - 0.95)a^2 &\geq 0.95 \times \frac{1}{5} \\ 5a^2 &\geq 19 \\ \therefore a &\leq -\frac{\sqrt{95}}{5}, \frac{\sqrt{95}}{5} \leq a \quad (\textcircled{3}) \end{aligned}$$

……(答)

である。